

C 広葉 葉や花は総て互生する

D 広葉 葉表は生時に特に皺状ではない

E葉(中脈除く)は両面ほぼ無毛か少毛 葉裏中脈に毛残らず?

F高山・亜高山、陽地に普通 1年枝は細毛散生、後無毛 葉の中脈・側脈・細脈は裏凸、肋脈状に裏凸;革質

葉は両面無毛;裏中脈は無毛-毛僅少

〔ミヤマヤナギ節〕(エゾミヤマヤナギは未検証)

G成葉は30-90mm、巾15-50mm;急鋭頭-円頭凸端;鋸齒明らかで内曲波状鋸齒

(SGOHKY、本中部以北、亜高山-高山、普通)(低木;葉23広)【23ミヤマヤナギ=ミネヤナギ】

若葉に細毛ある 両面無毛、裏中脈は無毛-毛僅少

葉は緑-濃緑、やや艶;裏粉白;革質

葉表は中脈・側脈が凹、細脈は見難い;葉裏は中脈・側脈は凸、細脈は微凸、肋脈(注)、細脈明視;細脈透視

低波鋸齒;腺先は前向き-下(縁)向き;乾くと縁は狭く裏に反る

葉柄無毛 葉柄13-20mm

成葉は楕円-倒卵楕円形、30-90mm、巾15-50mm 急鋭頭-円頭凸端、広V脚-円脚

1年枝は細毛散生、後無毛;Y隆起条あり

(H;波状鈍鋸齒は普通はるかにエゾノミヤマヤナギより著しく、子房に毛がある場合も毛は白色で長く直毛の傾向がある)

(Y;枝が立つもの、匍匐するもの有るが生育環境によるものではなく個体の遺伝的性質)(M48;分枝第一葉は向軸側の正中軸上に出る)

変品種;【23キヌゲミヤマヤナギf;(SGOH、中部以北)子房に絹毛あり】マルバミネヤナギf;(S0、奥羽、高地)(葉1広)葉はほぼ円形で円が凹頭】

G成葉30-55mm、巾15-25mm;円-短鋭頭;波状鈍鋸齒がやや不明

(SGOH、道、高山)(低木;葉広)【23エゾミヤマヤナギ】

若葉は無毛か、表伏細毛;裏散毛か、無毛 葉は両面無毛

葉は表緑;裏帯白

波状鈍鋸齒か、やや不明

成葉は倒卵長楕円-倒卵形、30-55mm、巾15-25mm;円-短鋭頭;薄い革質

葉柄5-12mm;表微毛、後無毛;裏無毛

若枝は無毛

(H;ミヤマヤナギと比し、鋸齒はやや不明)

(G;「大雪山産をTypeとすべきであろうが、子房の毛は灰短毛であり、ミヤマヤナギの子房に毛のあるものとする」として分けていない)

(H;ミヤマヤナギと区別される主な特徴は、波状鈍鋸齒が不明瞭なこと、子房の毛が淡褐色で短く、やや縮毛傾向があることである;しかし両種とも葉形、鋸齒、子房の毛には甚だしい変化があるため、中間を示す個体が少なくない、小泉が最初変種と考えたのもうなずける、今後の詳細な調査が必要である)